

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化**②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携****●横浜国立大学 国際社会科学研究所企業システム専攻****「ビジネス・ドクター育成プログラム」の事例 <人社系>****具体的に何を実施したのか**

最新の経営問題に対応した教育コンテンツを提供した。具体的には、学際的研究体制をとる「プロジェクト演習」（ビジネススクール）、第一線で活躍する企業経営者や行政担当者とディスカッションを行う副専攻プログラム「企業成長戦略」、文字通り、企業のトップによる講演とディスカッションを行う「トップ・セミナー」などである。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

「プロジェクト演習」（ビジネススクール）では、演習テーマの設定の際に、定期的な企業アンケートや在学生、修了生へのヒヤリングなどにより、企業もしくは有職者のニーズ調査を行った。「企業成長戦略」「トップ・セミナー」などでは、実務経験豊富なプロジェクト・マネージャーを採用し、企業とのネットワーク構築を図った。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

「プロジェクト演習」を実施しているビジネススクールでは、日経キャリアマガジン特別編集『MBA、会計、MOTパーフェクトブック』が実施した学生満足度調査（平成21～23年度）で高い得点を上げており、入試倍率も平均約4.5倍（平成21～23年度）と高い水準を維持している。「企業成長戦略」と「トップ・セミナー」では、多くの企業とネットワークを結ぶことができ、前者では29社、後者では12社の協力を得ることができた。「トップ・セミナー」のアンケートの平均評価点（各項目2点満点）は、研究への有効性1.9点、興味深さ1.89、期待通りのレベル1.67であり、以下のような感想も寄せられている。「ご自身の体験に基づいた、非常に含蓄のある内容だった。」「時間、国、人種を超えた視点、思考回路を持つ重要性を感じた。」「競争原理を上手く組み入れた組織運営とマーケティング戦略が興味深かった。」「経営の難しさや戦略決定など貴重な話だった。」「製造業の多くが抱えるテーマが盛り込まれた。」「中身の濃い話だった。」

●佐賀大学 農学研究科

「高度な農業技術経営管理者の育成プログラム」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施したのか

- ・教育プログラムの検証・改善を進めるための産学官連携組織として「佐賀大学農業版MO T教育推進協議会」を設置した。
- ・特別の課程を含む修了生による「佐賀大学農学部アグリマイスターの会」を設置し、修了後の研修や情報交換を行うフォローアップシステムを構築した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・佐賀大学農業版MO T教育推進協議会委員の参加による修了研究の公開発表会及び協議会での教育プログラム内容と指導法等に関する助言を得る仕組みを構築した。
- ・演習の一環として、修了生が取り組む先進的農業経営モデルの現地研修と交流会を実施し、学外での現地研修の機会を設けた。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

- ・修了研究における専任教員による複数指導体制に加えて、産業界や行政の支援によって進められていることによるプログラムに対する学生からの信頼感や学生の職業選択意欲の向上に繋がった。